

## 〈ジャーナリストから僧侶へ〉メモ

16. 12. 20 吉川利文

《私の記者生活》(1965～1970 中日新聞、1970～2002 朝日新聞)

31 年間社会部系の取材記者 朝日の大阪社会部で 12 年間。うち約 6 年間司法担当  
《手がけた主な事件、テーマ》

- ・事件：▽11. 22 在日韓国人母国留学生・青年不当逮捕事件＝1975.11.22 に発生。朴正熙（パク・チョンヒ）政権下の韓国で、80 年代後半までに 100 人以上が北朝鮮のスパイ容疑で逮捕・起訴され、うち 5 人に死刑判決、確定。しかし、処刑者はなしで。90 年代初頭にはほぼ全員が帰日した▽貝塚のビニールハウス殺人事件＝1971.1.21 発生。若い女性がビニールハウスの中で絞殺された。女性の夫が地元の不良少年を問い詰め、自白させた。共犯容疑で 4 人の若者が逮捕され、全員に有罪判決。しかし、2 審で共犯被疑者 4 人に無罪判決、確定。服役していた不良少年も再審請求し、89 年再審無罪。
- ・えん罪裁判：▽徳島ラジオ商殺し事件▽財田川事件など
- ・公害裁判：▽大阪空港騒音公害訴訟▽西淀川大気汚染公害訴訟▽多奈川第 2 火力発電所大気汚染公害訴訟▽大東マンガン公害訴訟▽伊方原子力発電所建設差し止め訴訟
- ・健康被害裁判：▽森永ヒ素ミルク中毒損害賠償請求訴訟▽未熟児網膜症損害賠償請求訴訟▽スモン病損害賠償請求訴訟▽カネミ油症健康被害損害賠償請求訴訟

《死者を追った 30 年》

- ・富山県での凄惨な交通事故。4 人が首切断で即死。
- ・和歌山市・和歌浦の旅館「寿司由楼」が全焼、16 人死亡、うち 15 人焼死。  
※死者の顔写真を「がん首」、焼死者を「焼き鳥」、轢死体を「まぐろ」と、きわめて職業的に人の死を扱う。  
※取材鞆に数珠を常時携帯、「がん首」集めに活用する。弔問の気持ちなし。  
※死者をつくり出す装置、都島刑務所の死刑台を見学。究極の「死」に直面。  
※阪神支局事件で後輩が死傷。身近な死。危うく自分も…。

《「死者たちはどこへ行った」》リタイアを機に切実に思う。

《自分も行く「死後の世界」探しへ》「それは仏教だろう」と決断

《行動様式をギアチェンジ》

現役時代：①やるべきこと→②やれること→③やりたいこと

リタイア後：①やりたいこと→②やれること→③やるべきこと

《佛教大学に入学》

6 2 歳で佛教大学通信教育部浄土宗僧籍取得課程に入学。3 年間学ぶ。毎年夏、10 日間ずつ、本山のひとつ京都・清浄華院（しょうじょうけいん）で法式（ほっしき＝法要）実習。東京の増上寺で仕上げの修行、厳しい加行（けぎょう）を 3 週間。平成 18 年、僧籍取得（少僧都）。

## 《仰天の仏教》

死後の行き先はわかったか→否！ 釈迦は死後のことは語らなかった！

中部経典の中に「箭喩（せんゆ）経」（「マールンキヤ小経」とも）がある。釈迦がマールンキヤの息子という弟子から、「完全な人格者は死後存在するのかしないのか」、「霊魂と身体は同一か別か」、「世界は無限か有限か」といった質問をしつこく受けたことがあった。釈迦はこれまでこんなテーマには「無記」「無記答」「捨置答」、つまりなんのコメントもしなかった、という。

釈迦は、「私はお前にそんなことを教えたか」「そんなことはどちらであっても、生まれ、老いる、死ぬことがあり、愁、悲、苦、憂、悩がある。私はいまその消滅を説くのである」と諭し、「毒矢の譬（たと）え」を説く

※毒矢の譬え＝矢で射られた人が「誰が射たのか」「矢は何でできているのか」などと疑問に思い「それがわからないうちは医師を呼ぶな」と言っていたら、手遅れで死んでしまうだろう、という例え話。わからないことにこだわるな、という警句。

※箭＝矢      ※喩＝たとえ

## 《釈尊が弟子たちに教えたこと》

### ・四諦八正道

▽四諦＝苦諦（くたい）、集諦（じったい）、滅諦（めつたい）、道諦（どうたい）→これをまとめて「苦集滅道（くじゅうめつどう）」という（この世は苦であると認識しなさい。その原因は執着・煩惱である。その執着・煩惱をなくす方法〈道〉はある。それは「八正道」である、という真理）。

※諦＝真理

▽八正道＝正見（正しい見解、思想）、正思惟（正見にのっとった正しい思惟、意思を持つこと）、正語（正見にのっとった正しい言葉を語ること）、正業（正見にのっとった正しい行為をすること）、正命（命＝生活。正見にのっとった正しい生活を営むこと）、正精進（善のためにひたむきに勇敢につとめ、励み、努力する心の働き）、正念（正見にかなう正しい思念）、正定（定＝禅定、瞑想。正見にのっとった正しい瞑想）

### ・関連用語

▽四苦＝生苦（生まれる苦しみ。輪廻を繰り返す）、老苦、病苦、死苦

▽八苦＝愛別離苦（あいべつりく）、怨憎会苦（おんぞうえく）、求不得苦（ぐふとつく）、五盛陰苦（ごじょうおんく）

▽悟り＝解脱（苦に満ちた世界から脱出すること）→涅槃（煩惱を吹き消した、絶対平安な心の境地。究極の幸福）→悟りの智慧（解脱、涅槃に至らせるツール〈縁起・真理・空〉）を獲得すること。

▽煩惱＝貪（くどん）＝むさぼり）、瞋（くじん）＝いかり）、痴（くち）＝無知なことを「三毒の煩惱」という。

## 《大乘仏教の魅力》

部門に入って失望したか→否！ 仏教の教理（モラル）に魅力。

・大乘思想→究極の幸福をめざすが、「自利利他」が前提。（南伝仏教〈小乗仏教〉は自

利優先)。「自未得度、先度他(じみとくど・ せんどた)」(=自分がまだ悟りを得ていなくても、先に他の人を悟らせることが大切)、「上求菩提下化衆生(じょうぐぼだい・げけしゅじょう)」(=上に向かって悟りを求めると同時に下に向かって大衆を教化しなさい)を重視する。

《法然の魅力》

- ・自分に厳しく(肉食妻帯)、他人に優しい態度(親鸞の結婚、飲酒などに対し「念仏の妨げにならないなら…」と鷹揚)

《結論=今の心境》

- ・「信仰というものは、99%の疑いと1%の希望なのですから」(遠藤周作)
- ・「たとひ法然上人にすかされまいらせて、念仏して地獄に落ちたりとも、さらに後悔すべからずさふらふ」(親鸞)

(終)